



保育はもちろん、  
学校教育、家庭教育、  
児童保護、児童文化、  
芸術・宗教などに関わる  
論考約 **300** 点  
を収録！

推薦します

森上史朗  
大豆生田啓友

子どもの友となるに、  
一番必要なものはいきいきしさである

——倉橋惣三（『育ての心』より）

『子どもに生きた人』倉橋惣三の温かい  
まなざしに触れる、保育の心を知る！

明治・大正・昭和にわたって日本の保育の礎を築き、  
いまなお生き生きとした息吹をもたらす、倉橋惣三  
保育、教育学、児童心理、児童文化など、  
多様なジャンルからその思想の全体像にせまる！

# 倉橋惣三

全7巻

# 保育人間学セレクション

● 学術著作集ライブラリー

編集・解説 浜口順子（お茶の水女子大学教授）



## 刊行にあたって

浜口順子

倉橋惣三（一八八二―一九五五）は、明治末から戦後にかけて約半世紀間、日本の保育・幼児教育の理論形成を牽引した人物である。その研究や論説、講演等は幼稚園・保育所の教育にとどまらず、学校教育、児童保護、家庭教育、児童文化、女子教育等の多方面にわたり、その学問領域は「子ども学」と広く位置付けられたほうが妥当かもしれない。多くの著書や論集、雑誌等において発表されたものは、一九六〇年代以降、『倉橋惣三選集』全五巻（フレイベル館、一九九六年に完結）等の形で再刊されてきた。

倉橋惣三に関する研究も数多い。その中で森上史朗『子どもに生きた人・倉橋惣三——その生涯・思想・保育・教育——』（フレイベル館、一九九三年）は、倉橋の主要な著書・論文のみならず、新たに発掘収集された論稿・記事資料をもとに倉橋の「子ども学」全体を眺望し、その豊かな多面性を浮かび上がらせた点に特色がある。同書には、当時森上が知りえた倉橋関連の文献の目録が「資料倉橋惣三著作及び倉橋惣三に関する研究文献等」として掲載され、考察対象として取り上げきれなかった文献もそこに含まれている。今回、このセレクション編纂の元となったのはほとんど、森上が精力をかけて自ら収集した貴重な原資料や複写である。二〇一一年、それらの資料の入った二つの大きな段ボール箱が、倉橋の長く過ごした場所、お茶の水女子大学（元東京女子高等師範学校）の保育資料室に寄贈された。

資料は森上自身によって四二冊のファイルに整理されていた。『選集』に収録されたものや比較的手ししやすい資料は除外しても、このセレクションの刊行計画には収まらない量であり、『キンダーブック』の文章や創作童話・詩など、児童文化関連資料の一部は割愛せざるを得なかった。一方で、「学校教育」

「児童保護」「家庭生活」「芸術・宗教教育」など、保育・幼児教育以外のジャンルの貴重な論考を多く再録できたことは、倉橋惣三の保育思想という大きな山のもとに広がる裾野を睥睨し再発見するために意義があると信じている。二〇代の若き倉橋が自らの「子ども学」を真摯に手探りしつつ研究者としての道を歩み始め、やがて押し寄せる疾風怒濤の社会的変動を目の当たりにしながら如何に「戦後」に辿り着いたか、倉橋という一つの生き方に寄り添う機会を提供する資料ともなろう。

平成元年に改訂された文科省『幼稚園教育要領』は、子ども一人ひとりの自発性を重視する教育観に大きくシフトしたが、それによって倉橋惣三の幼児教育観が見直され、近年、改めて研究しようとする人が増加している。生活と遊び、プロジェクト・メソッドの評価、早教育、児童虐待、子どもの生活環境の悪化、教師自らの学び、幼小の接続、教師の省察など、まさに現代に通ずる課題について、倉橋は戦前から論じている。しかし倉橋を今に引き寄せるだけでは、倉橋惣三その人を見出すことはできない。その多岐にわたる旺盛な仕事を、倉橋が生きていた時代状況、社会に漂っていた雰囲気思いを馳せ、感じながら、理解し解釈することが求められている。この『倉橋惣三 保育人間学セレクション』はそのための重要な史料となるだろう。

倉橋はつねに、保育と教育を峻別しようとする社会に対し警鐘を鳴らしていた。日本の近代以降の幼児教育の歴史は、「保育」という言葉と共に築き上げられてきた。倉橋はその中で、「子供」「児童」が自発性を発揮して生活する力、そして大人がその生活と関わり共に生きる保育の重要性を主張し続けた。ここに収録されたどの文献からも、自意識にとられ子どもから遠い存在にながちな大人、ひいては近代に生きる人間の自我を問いたただす倉橋の姿勢が読み取れるだろう。このセレクションを「保育人間学」としたのはそのためである。

（はまぐち じゅんこ／お茶の水女子大学教授）

## 推薦のことば



『倉橋惣三 保育人間学セレクション』の  
刊行をよろこぶ

森上史朗

久しい以前、私は倉橋先生の奥様が、「これを生かしてほしい」と津守真先生に託された資料、それに私の収集した資料もあわせて、『倉橋惣三選集第五巻』(ラレーベル館)を刊行した。しかし編集上の制約もあり、割愛せざるを得なかった多くの論文があった。児童文化や家庭教育に関するものをはじめ、さまざまな重要論考が、残されていたのである。

今回、それらの資料をもとに、浜口順子さんが『倉橋惣三 保育人間学セレクション』全七巻を刊行される。研究者はもちろん、現場の実践にたずさわる多くの保育者、学生が、本資料を通じて、さまざまな角度から倉橋惣三の論文に触れ、これからの日本の保育がよりよいものとなることを、心から期待しています。

(もりうえ しろろ／元・子どもと保育総合研究所所長)

\*構成・日本図書センター

激動する保育界のなかで、  
あらためて倉橋から保育の「真」を問う

大豆生田啓友

待ちに待った倉橋の著作集『倉橋惣三 保育人間学セレクション』の刊行、感激の思いです。倉橋惣三は、わが国の子ども中心の幼児教育の基盤をつくり、日本保育学会の創設にもかかわった人物であることは、いまさら言うまでもありません。わが国の保育界への功績は計り知れないのです。現代、子どもや保育を取り巻く社会的状況は大きく変化し、幼児教育や保育は大きな激動期の真つただなかにあります。そのために、倉橋はすでに過去の人物のように語られることもありますが、それは間違いです。戦後の保育の新たな時代の幕開けにあつて、「保育の新と真」、つまり新しい時代にあつて、新たに変わるべきことと変えてはいけない真があることを述べた倉橋の保育論は、現代においても大きな示唆を与えてくれるのです。

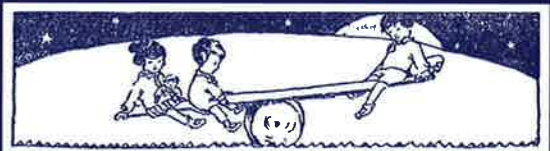
この『倉橋惣三 保育人間学セレクション』で注目すべき点は数多くあります。まず、倉橋の最初の体系的保育論である「保育入門」も収録されています。それは彼の「誘導保育論」の萌芽的な視点をもつもので、ここで私たちは倉橋保育論の原点を知ることができるのです。また、学校教育に関する論考も収められています。小学校との連携・接続が重要な視点としてあげられる現在、学校教育も含めた倉橋の教育論から得られる示唆はとても大きなものがあります。さらに、家庭教育論についても、倉橋の代表作である「家庭教育」はじめ『婦人画報』や『少女画報』に掲載された数多くの著作が収録されています。家庭を取り巻く状況は大きく変化していますが、倉橋の家庭教育論によって、家庭生活そのものの重要性を、その原点から学ぶことができるでしょう。そしてさらに、幼児教育論ばかりが注目されるなかで、児童保護(養護)や、内村鑑三との接点などから倉橋の宗教的な視点を確認するためにも、重要な資料を提示しています。

本シリーズには、倉橋保育論を知る上で注目すべき論考が数多く収録されており、現代の保育における重要な「真」を見出すために、欠かすことのできないものとなるでしょう。心より推薦をさせていただきます。

(おおまめうだ ひろとも／玉川大学大学院教授・日本保育学会副会長)

# 保育・幼児教育にとどまらない、深く豊かな倉橋惣三の世界、その全貌があらたに立ち上がる！

日本の保育を形づくった倉橋惣三。その著作は保育・幼児教育以外の分野にもわたり、「保育人間学」ともいべき深さと広さをもっている。倉橋の保育思想を再発見し、現代の課題に向き合うために。重要論考を集成したセレクション！



## 本選集の特色

### 1. 倉橋による「保育人間学」を集成

倉橋の保育思想、人間観を知るための重要論考を「保育人間学」という視点から集成。『倉橋惣三選集』全5巻未収録の貴重な論考を集めた、森上史朗の資料をもとにしたセレクションです。

### 2. 多彩なテーマ別に構成

倉橋の論考を第1巻「幼児期の教育」、第2巻「教育論」、第3・4巻「家庭生活と教育I・II」、第5巻「児童保護」、第6巻「児童文化・宗教教育」、第7巻「児童心理・その他」とテーマに沿って構成。講座、論集、雑誌、新聞などに発表したはば広い分野の論考から、倉橋の保育思想を明らかにします。

### 3. 知られざる貴重資料の数々

地方講演や大学講義の記録、報告書など公的な刊行物、折に触れて新聞に発表した小文など、貴重な資料を数多く収録しました。倉橋の知られざる側面に触れる、研究者必携のセレクションです。

## 収録文献一覧

### 第1巻 幼児期の教育

最初の体系的保育論である『保育入門』ほか、倉橋の保育論の形成と発展をたどるうえで見逃せない論考を集成。  
学童前の教育に就いて 『小学校』一九二四年  
幼稚園の職能に就いて 『帝国教育』一九二六年

幼児の心理と教育(一) 『子供研究講座』一九二八年  
幼児の心理と其取扱ひ方 『当面の児童問題』一九二八年  
幼児保育の要諦 『児童愛護読本』第三回全国児童愛護週間『一九三九年  
保育入門(一)～(三) 『婦人子ども』一九二四～二五年  
モンテッソリの教育 『心理研究』一九二二年  
我国幼稚園教育当面の問題 『児童研究』一九〇九年

\*収録紙誌の発行月日、巻号は省略しました。

### 第2巻 教育論

子どもの成長過程に寄り添って教育を語る『教育講話』はじめ、制度や施設に関する提言など公的な視点に立つ論考も。

『教育講話』(講義録冊子) 一九二六年ごろ  
児童研究の概況 『児童学概要』一九二二年  
教育性の乏しき我国の社会 『西倫理会倫理講演集』一九二二年  
教育改造と社会学 『附教育社会学に就いて』『小学校』一九二二年  
児童教育講話 『アルス婦人大講座』八、一九二六年  
序 『幼稚園と低学年の生活(図画指導)』一九二〇年  
児童生活の特色 『日本児童学会秋季総会演説』『児童研究』一九二四年  
児童遊園 『児童研究』一九二五年  
都市児童遊園の施設に就いて(大正三年二月東京児童学会常会にて) 『児童研究』一九二五年  
人間教育 『小学校』一九二八年  
目的教育 『小学校』一九二八年  
相互教育 『小学校』一九二九年

教科書といふものに就いて…一個の本であり度い 『小学校』一九二六年  
尋一入学前の教育 『小学校』一九二七年  
読本以外の国語教育…国語科の実際方面 『教育論叢』一九二五年  
あつさり考へること…試験問題の批判とを 『教育論叢』一九二二年  
児童生活の特色としての社交性と其の教育 『教育論叢』一九二二年  
生命の訓育 『教育論叢』一九三三年  
公民精神の教育と教師 『教育論叢』一九三三年  
学校の職能に関する一つの省察 『児童教育』一九三二年  
米國に於ける教育の社会化 『児童教育』一九三二年  
常識の教育者…小学校教育の本質に沿って 『児童教育』一九三五年  
教師の反省 『児童教育』一九三七年  
学童期に於ける自我意識の教育 『教育実験界』一九二七年  
ボストンの児童美術館 『日本児童協会時報』一九二二年  
社会作法の訓練 『日本児童協会時報』一九二二年  
社会民としての自治教育の意義 『教育時論』一九二二年  
社会教科としての国語 『国語教育』一九二二年  
欧米及び我國に於ける社会と学校との關係 『日本教育』一九二二年  
社会生活の理解と興味 『文化大学』一九二二年

都市教育者…二要件 『都市教育』一九三三年  
低学年と被教育特殊意識 『低学年教育』一九二五年  
所謂試験の本質に就いて 『小学四年生教育』一九二八年  
学校の社会性 『教育時報』一九二八年  
児童研究と教育 『教育学術界』一九三二年  
コトモノの読本として 『教育』一九三三年  
教育の本質に即して 『教育週報』一九二四年  
寧ろ早くしたい 『教育』一九三六年  
生活教科としての生活味…青年学校修身及公民科教授及訓練要目 『公民教育』一九三七年  
社会作法の訓練 『日本教育』一九三七年  
体操英語 『女子と子供の体育』一九三八年  
練体操英語 『女子と子供の体育』一九三八年  
体育と品位の養成 『女子と子供の体育』一九三九年  
戦争と子ども 『女子と子供の体育』一九三九年  
成人教育 『東京朝日新聞』一九三五年  
教育社会学の問題(一) 『児童教育』一九三三年



### 第3巻 家庭生活と教育I

温かな家庭教育を、倉橋はつねに重視した。本巻は、「家庭生活と教育I」として研究者や指導者へ向けた論考を多く収録。

『家庭及び幼稚園に於ける幼児の教育』全 『一九一八年』  
『家庭教育の本質と指導の要諦』(家庭教育叢書 第一集) 一九二六年

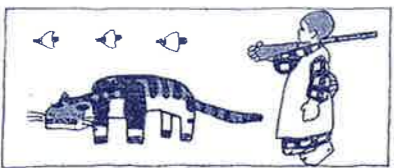
こごとの研究 『心理学通俗講話 第五集』一九三三年  
小言の研究(通俗心理講演会に於て) 『教育界』一九二〇年  
小言の研究と小言から見た日本の家庭 『婦人画報』一九二〇年  
家庭と家庭教育(一) 『子供研究講座 第一巻』同 第二巻 一九二八年、二九年  
夏休休暇と我子の生活 『子供研究講座伝報』いとし児 一九二九年  
幼児の社会性 『子供研究講座月報 第四号』一九二九年  
家庭教育総説 文部省社会局編『現代家庭教育の要諦』一九二二年

家庭教育 『岩波講座 教育学』第一〇冊 一九三三年  
親と語る 『両親再教育』一九三三年  
はじめの言葉、むすびの言葉 『愛育のこころ…こどもの保健と教育』一九四九年  
我子は新でどういいう教育のされ方をしているか 『母が導く小学一年生』一九五一年

### 第4巻 家庭生活と教育II

『家庭生活と教育II』は、『少女画報』掲載の講話など、深い洞察と人間愛にあふれ、時に軽妙な、倉橋の家庭向けの文章も収録。

よい幼稚園とは 撰択の注意と 家庭の保育と 『婦人週報』一九一八年  
こどもの研究(一)～(四) 『婦人週報』一九一九年  
いたづらは小児の天性なり 『婦人画報』一九二〇年  
子供と自然物 『婦人画報』一九二一年  
正月と子供 『婦人画報』一九二二年  
普通の家で出来る児童室 『婦人画報』一九二二年  
子供の庭と其の設備 『婦人画報』一九二二年  
子供の誉め方 『婦人画報』一九二三年  
端午の節句を尊重せよ 『婦人画報』一九二三年  
男の児と女の児 『婦人画報』一九二三年  
育児の理論と実際 『婦人画報』一九二四年  
男の子と女の子 『婦人画報』一九二四年  
正月の遊、双六とかるた 『婦人画報』一九二六年  
不良児童は心の孤児 『婦人画報』一九一八年  
愛育の苦心 『婦人画報』一九二五年  
日常涼味 『婦人画報』一九二五年  
ぶつぶつ蟲 『少女画報』一九二二年



カ一ばい 『少女画報』一九二二年  
朝の歌 『少女画報』一九二二年  
暑中妙薬 きちやうめん丸 『少女画報』一九二二年  
春風 『少女画報』一九二三年  
『は』と『い』と『え』 『少女画報』一九二三年  
涼風物語 『少女画報』一九二三年  
弱いものを 『少女画報』一九二三年  
元日のこころ 『少女画報』一九二四年  
ぶつぶつ蟲 『少女画報』一九二四年  
一つ大きくなって 『少女画報』一九二三年  
整頓すきな定子 『少女画報』一九二二年  
上品な少女 『少女画報』一九二二年  
我子の教育の実際上の諸問題(東京に於ける家庭教育講座に於ける講話 『婦人文化パンフレット 育児編』一九二七年  
家庭教育の第一義 『児童』一九二七年  
幸福な人に育てる道 感謝と許しと 『婦人週報』一九一九年  
総論は果して甚六なるか 『婦人世界』一九一八年  
実際問題としての早教育 特に家庭の考慮をうながす 『子玉』一九一八年  
よい幼稚園とは 撰択の注意と 家庭の保育と 『婦人週報』一九一八年  
家庭に於ける幼児研究法(一)～(三) 『児童研究』一九二二年  
子供の経済心の養ひ方 『児童研究』一九二二年  
親の言葉といふことに就いて 『育児の友』一九一九年



我が子の育て方(上・下) 『子供の教養』一九一九年  
わが子の家庭教育 『千駄ヶ谷第二小学校』一九一九年  
真の家庭教育とは何か 『公民教育』一九三三年  
『これからの子女の教育』 『週刊朝日』一九三三年  
児童教育相談(無字の母) 『愛育』一九三五年  
幼児の時間 『教育』一九三六年  
家庭教育 『日本語学振興委員会研究報告 第一篇 教育学』一九二七年  
我子の体育と家庭 『女子と子供の体育』一九三九年  
新しい家庭教育のために 『児童研究』一九四九年  
子守唄 『東京朝日新聞』一九四〇年  
子供の遊びの原動力 『読売新聞』一九四〇年  
おバケと児童 『読売新聞』一九四〇年  
子供と避暑 『報知新聞』一九四〇年  
神経的な児童教育(一)～(三) 『時事新報』一九四〇年  
我子のしつけ方 少年の巻…立派な員 家庭で意見尊重 みんな平等に 『東京朝日新聞夕刊』一九一八年  
人の子の親へ 家庭教育の要諦(一)～(三) 『鹿兒島朝日新聞』一九三三年  
愛児を幼稚園におくる 親御さん達へ 『東京朝日新聞』一九三三年  
子女相談 読書好きの幼児 『東京朝日新聞』一九三四年  
悪い結果を生じ易い 流行の早教育 『東京朝日新聞』一九四二年  
家庭講話…真に子供の為(一)～(四) 『横浜貿易新報』一九二二年

### 第5巻 児童保護

児童の問題の背景には社会の問題がある。農繁期託児所に関する提言など、児童保護に関する論考を中心に収録。

『農繁期託児所の手引…保育の実際』(愛育叢書 第二集) 一九三六年  
『農繁託児所の経営…保育パンフレット』 一九一九年  
母を与へよ 『婦人問題講演集』第八集 一九一九年  
社会的児童保護概論 『社会政策体系 第八巻』一九一七年  
児童保護の教育原理 『社会事業大系三』一九一九年

児童保護問題(一)～(完) 『児童保護』一九二五～二六年  
妊産婦乳幼児保護ノ社会施設最低標準(生計孝之・倉橋惣三原泰一作成) 『児童保護』一九二七年  
幼児保護の年齢的考察 『社会事業』一九二六年  
ペスタロッチーを憶ひて 『社会事業』一九二七年  
不良少年問題対策として家庭事業を提唱す 『社会事業』一九二七年  
我國幼稚園教育当面の問題 『社会事業』一九二八年  
児童保護に於ける三つの問題 『社会事業』一九二八年  
…と具体的に 『社会事業』一九二九年  
社会事業家の養成機関に就いて 『社会事業』一九二九年  
ソーシャル・センターとしての託児所 『社会事業』一九三〇年

児童は如何に教育すべきか 『慈善』一九三三年  
児童と栄養 『体育』一九〇九年  
羸弱児童夏期保養所二就す 『児童研究』一九三三年  
不良少年考察の一面 『婦人公論』一九一七年  
児童保護の趨勢 『東京府社会事業協会会報』一九二二年  
不良少年は資産家にも出る 『サンデー毎日』一九二二年  
家庭の保護と充実…愛育問題の基礎 『愛育』一九三五年  
初等教育と養護 『学校衛生』一九四三年  
小供の遊びに対する私の理想 児童保護会と児童運動場の必要 『新家』一九〇九年  
椽ぐ子供(一)～(四) 『東京朝日新聞』一九二一年



選集未収録の膨大な論考から、新しい倉橋惣三がうかびあがる！

●学術著作集ライブラリー

# 倉橋惣三 保育人間学セレクション

全7巻

【編集・解説】 浜口順子 (お茶の水女子大学教授)

発行：学術出版会

【体裁】 A5判・上製・布クロス装・総約3000頁

【定価】 揃本体120,000円+税 ISBN978-4-284-10466-1

- 第1巻 幼児期の教育
- 第2巻 教育論
- 第3巻 家庭生活と教育Ⅰ
- 第4巻 家庭生活と教育Ⅱ
- 第5巻 児童保護
- 第6巻 児童文化・宗教教育
- 第7巻 児童心理・その他



東京女子高等師範学校附属幼稚園の子どもたちと (1933年ごろ)

おすすめ先

幼児教育・保育・教育学・教育史・児童心理・児童文化などの研究者／幼稚園・保育園の関係者、  
教員・保育士の方々／家庭・子ども関連団体／大学・短大図書館、公共図書館など

## 好評の関連図書

日本の幼児保育を形づくった先駆者のエッセンス！

### 学術著作集ライブラリー 倉橋惣三選集 全5巻

発行=学術出版会

- 定価：揃本体80,000円+税 ISBN978-4-284-10140-0
- 体裁：A5判・上製・総約2,350頁
- 底本：『倉橋惣三選集』全5巻(昭和40、42、平成8年／フレーベル館)
- 各巻構成：第1巻 幼稚園真諦、子供讃歌、フレーベル／第2巻 幼稚園雑草／第3巻 育ての心、就学前の教育／第4巻 保育案、短言(戦前)、戦中小編、戦後小編 ほか／第5巻 児童の教育、児童の発達と心理、教師論 ほか
- 内容：坂元彦太郎、及川ふみ、津守真、そして森上史朗らの編集による倉橋惣三の決定版著作集。『幼稚園真諦』『子供讃歌』『幼稚園雑草』『育ての心』など、倉橋のエッセンスが凝縮された、必読の選集を復刻！



戦後保育の発展を担った代表的な保育雑誌、待望の復刻！

### 復刻版『保育』戦後編Ⅱ 1956-1965(全3回配本・全20巻)

- 解説：湯川嘉津美
- 定価：揃本体330,000円+税
- 体裁：A5判・上製・総約9,200頁
- 底本：全日本保育連盟編『保育』第11巻 第1号(1956年1月)～第20巻第12号(1965年12月)／ひかりのくに昭和出版
- 各巻構成：
  - 第1回配本 全8巻 定価(揃本体110,000+税) ISBN978-4-284-30770-3
  - 第2回配本 全6巻 定価(揃本体110,000+税) ISBN978-4-284-30779-6
  - 第3回配本 全6巻 定価(揃本体110,000+税) ISBN978-4-284-30786-4 2017年1月刊行予定
- 内容：保育界を理論、実践の両面から牽引した幻の保育雑誌がついに復刻！好評の「戦後編Ⅰ」に続いて「戦後編Ⅱ」では、幼保一元化、五歳児保育の義務制など、現在に直結する問題も！湯川嘉津美による解説付。



現場の保育者による実践記録を集成した初の試み！

### 戦後幼児教育・保育実践記録集(全III期・全29巻)

- 監修：太田素子
- 編集：福元真由美・浅井幸子・大西公恵
- 定価：揃本体294,000円+税
- 体裁：A5判・上製・総約9,000頁
- 第I期 表現する子ども 全9巻 定価(揃本体98,000円+税) ISBN978-4-284-30692-8
- 第II期 子どもの生活と仲間関係 全10巻 定価(揃本体98,000円+税) ISBN978-4-284-30702-4
- 第III期 保育のデザイン 全10巻 定価(揃本体98,000円+税) ISBN978-4-284-30712-3
- 内容：1950～80年代までの、全国の保育園・幼稚園の実践記録を集成！絵画、遊び、仲間関係、地域、カリキュラムなど、現代の保育を考えるうえで重要なテーマから、戦後日本の保育のあゆみを概観！テーマごとの詳細な解説付。



大正新教育運動にあらたな光をあて、その全体像を探る！

### 文献資料集成 大正新教育(全III期・全20巻)

- 監修：橋本美保
- 定価：揃本体282,000円+税
- 体裁：A5判・上製・総約12,000頁
- 第I期 八大教育主張と公立学校の新教育 全6巻 定価(揃本体94,000円+税) ISBN978-4-284-30793-2
- 第II期 師範学校の新教育 全7巻 定価(揃本体94,000円+税) ISBN978-4-284-30800-7
- 第III期 私立学校の新教育 全7巻 定価(揃本体94,000円+税) ISBN978-4-284-30807-6 2017年1月刊行予定
- 内容：大正新教育の全貌をとらえる、初めての試み！八大教育主張にはじまり、師範、私立、公立と全国の学校へ広がった大正新教育。その実際の姿を伝える、各校の教育者たちによる実践の数々……。研究者さへ未見の資料も多数収録。



〈発行〉  
学術出版会

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-8-2  
TEL. 03-3947-9153 FAX. 03-3947-9157  
http://www.gaku-jutsu.co.jp  
E-mail: info@gaku-jutsu.co.jp

〈発売〉  
日本図書センター

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-8-2  
TEL. 03-3947-9387 FAX. 03-3947-1774  
http://www.nihontoshu.co.jp

取扱書店